平成31年4月1日　第 368 号

あおろまん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net ＜発行所＞あかい新聞店 武豊店／知多郡武豊町字金下37番地 ☎＜0569＞72-0356 常滑店／常滑市市場町4丁目167番地 ☎＜0569＞35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする
P.T.C. GROUP
半田中央印刷株式会社
〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525（代） FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職

―自分ドラマつくろう― ⑼⑹ 岡 田 清 治

■プロフィール
著者：岡田清治（おかだ・せいじ）
1942年生まれ ジャーナリスト（編集プロダクション・NET108代表）
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』『あなたは社員の全能力を引き出せますか!』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のＦＡＸかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
ＦＡＸ：0569-34-7971　メール：takamitsu@akai-shinbunten.net

【写真】東京には本当の空はない（著者撮影）

姪の就職2

「バンガロールではほとんどのものが入手できるようです」

「マーケットモールには映画館を併設しているのでしょう」

「そうです。インド人は製作本数も多いですが、映画館も多いですね」

「日曜日にオープンしている店はあるのですか」

「結構多いようですよ」

「バンガロールに赴任するときに、日本から持参しないと、現地では入手しにくいものもあるのでしょう」

「あるようです。例えばやかん、キッチンタイマー、箸、和食器、コーヒー用ペーパーフィルター、電子炊飯ジャー、ホットプレート、パン焼き器、洗濯ネット、保冷剤などのほかに、入手困難なモノに野菜ではニラ、日本かぼちゃ、もやし、レンコン、みつば、ごぼう、しめじ、しいたけ等また新鮮な豚肉、牛肉、刺身用の魚などです。さらに醤油、片栗粉、パン粉、日本コメ、味噌、みりん、日本酒、和風だし、中華だし、洋風だし、のり、日本茶、麦茶や昆布などです」

「そう聞きますと、ほとんど不自由しないですね」

「だから日本からはなにも送っていません」

「バンガロールは国際都市だからインドの中でもモノが豊富な都市でしょうね」

「そう思いますね」

「今日は長い間、話し込んでしまいました」

「いいのですよ。お客様も少なかったので、こういう日もあるのですから心配しないでください」

「では前島さん、そろそろおいとましましょうか」

「また、連絡します。ママ、おやすみ…」

真三と前島は店の前で別れた。

真三は久しぶりに痛飲した。

「遅かったですね」

るり子は玄関で迎え、仕方ないわねという思いから低い声で迎え入れた。

「すまん、すまん。久しぶりに話が弾んだのだよ」

「もう、遅いですから寝ましょうか」

「そうだね」

真三は寝床に入ってもなかなか眠れない。先日、息子夫婦が東京に転勤になり彼らに招待された。この機会に旧友に会って親交を深めたときのことを思い出しながら、しばらく薄目をあけながら思い出していた。

―上京の折、交流に付き合っていただきありがとうございました。昨日夜の11時、無事に帰りつきました。いろいろご教示いただき、感謝しています。

今回、わずかな期間でしたが、東京の中心部を巡って学ぶことがたくさんありました。お礼と言っては独断と偏見ですが、東京印象記を送らせていただきます。また写真約1、０００枚から気に入った1枚を選ぶのは至難の業でしたが、添付（奥武蔵で見た十月サクラと紅葉のコラボレーション）いたしますのでご笑覧ください。

旧友にお礼のメールを送った。

●老人が消えた街

久しぶりに上京、東京の街を散策した。息子夫婦が東京に異動した機会に、彼らが住む五反田のマンションのゲストルーム（34F）に招待された。そこで老夫婦の東京見物を企画した。

午前11時品川に着き、山手線の五反田駅で降りた。周辺は普通の風景だが、マンション群が立ち並ぶ一角は整備され夜は川沿いにイルミネーションが飾られていた。息子夫婦は勤務で留守だったので場所を確認後、時間まで渋谷の街をうろうろした。午後3時に再びマンションに戻り、部屋に入りその高級感に驚いた。眺望だけは圧巻だった。

この日の夕方、東京駅で待ち合わせ近くの居酒屋で旧友と交流した。居酒屋には東南アジアの旅行客が押しかけていた。飲食店の2割が消えるご時世に、この居酒屋は午後5時から盛況だった。

この東京都心から老人が消えている―というのが最初の印象だった。老人はどこに行ったのか。今日一日、ほとんど老人を見かけない。この都心から老人が消えているのではないかとつぶやくと、「老人は郊外に追いやられている」と東京に住みついている旧友は言う。そうか、老人は郊外で息を潜めているのか―と納得した。

ところが翌日、上野の都立美術館にムンク展を観に行った。この芸術の杜には多くの老人が集っていた。ムンクの「叫び」という作品のプリントを若いころからずっと持っていた。不思議な絵だと思いながら美術館内でムンクについて学んだ。彼はたえず死を意識していたことを知った。

このあと以前から上野に行けば入った精養軒で昼食、ここにも老人は多かった。午後から六義園の紅葉、次に明治神宮そして表参道のイルミネーション道を通って渋谷駅まで約40分、歩いた。

夕方、渋谷駅のハチ公前で待ち合わせた。ここではまったく老人を見ない。聞こえる日本語や日本人は少なく、ハチ公像の前で次からつぎへとモデルが変わりながら写真を撮っているのはアジア系の観光客である。ハチ公人気はすごい。

夕食に案内されたレストランは「筋肉食堂」という奇妙な店名だが、筋肉マンの若いお兄さんが優しく迎えてくれた。メニューには「高タンパク、低糖質、低脂肪」と、あった。人気があるのか、次から次へとお客が入ってくる。とにかく変わったメニューが並んでいた。

次の日、西武池袋線の吾野（あがの）の国民休暇村に向かった。二〇一八年九月にリニューアルを終えたばかりで真新しかった。東京から約一時間半と便利な場所にある。周囲の山々の紅葉は美しく、十月桜が彩りを添えていた。ここは秋でも野花が咲いている。

全国の国民休暇村をほとんど訪れているファンとしては「奥武蔵」の国民休暇村はイチオシである。もし行かれるなら「にしかわ館二階」の部屋を指定されることをおすすめ。西川木材が有名なのか、その材木で仕上げた新しい部屋だ。

翌日、ゲストルームのチェックインまで時間があったので、日暮里駅で降りて上野桜木に向かった。墓地を抜けて「このあたり」という路地裏風に並ぶ一角に出た。ちょうど、この日、山形の「かわにし」の豆イベントをしていた。紅大豆と「和紅茶」を買って路地の椅子に座って一服。そこから鶯谷駅に出てマンションのゲストルームに戻った。

夕方、息子の案内で恵比寿のガーデンプレスタワー39階の「ロングレイン」というタイ料理のレストランに案内された。ここはオーストラリア人所有のオーストラリア発のモダン・タイ・レストランであった。「生きている間に二度とこられないところだ」と脅かされた。客の多くは若い男女や子連れの夫婦も来ていた。「子どものころからこういう雰囲気を味わっておくといいのでは」と、息子が言う。それにしてもタイ料理は合わなかった。それを見て「これからの時代、多様性を受け入れられないと生きていけないぜ」と残した料理を見ながらつぶやいた。レストラン内の従業員の流れも振る舞いも速い。

確かに老人は変化を嫌い、新しいことに挑戦しないきらいがある。老人と若者はこの先分断されていく予感がする。同居なんかできなくなってきている。もはや老人にとって若者は宇宙人とさえ思えてくる。

老人も新しいことに挑戦し多様性を認め、受け入れないとこれからの１００歳時代は生きていけないと言われるが、どこまでできるか、やるかは疑問だ。街や建物、住まいなど新しい時代に入っていることを感じた旅だった。

今回の東京で気になったことがある。山手線の車内の到着情報を見て、それぞれの駅で接続列車の多くが、また山手線自身も次の駅で緊急停止ボタンが押されていますなど、たえず遅延情報を流していたことである。これほどきめ細かく情報提供できるシステムに驚いた。「それにしても東京の電車はよく遅れるね」とつぶやくと「みんな慣れているし、ありがたいと思っている」という。『電車の遅延に感謝』という本が出ているくらいだそうだ。「多くのサラリーマンは待っている間にすることがある」とも言われた。

最終日。朝9時30分、ゲストハウスを出て新橋に向かった。ここから浜離宮まで15分歩いた。ここは主に欧米の観光客がちらほらいるだけで、秋の浜離宮を楽しめた。あの話題の築地市場が５００m先にあるから参考の為、行ってみた。大変な人出で、とくにアジア系の観光客が路上飲食しているのが目に付いた。とても飲食店で食事できそうもないので近くのビルの食事処でサラリーマンに混じって日替わりランチを食べ、パートナーと別れた。

私の出会った作品

（34）

杉本武之

（三十四）加納実紀代『女たちの〈銃後〉』

◎加納さんの思い出

2月22日、加納実紀代という一人の魅力的な女性が死去しました。

「中日新聞」（2月25日・朝刊）の社会面に、顔写真と共に、次のようなかなり詳しい死亡記事が書かれていました。

加納実紀代（かのう・みきよ＝女性史研究家）22日、すい臓がんのため死去、78歳。旧朝鮮（ソウル市）生まれ。葬儀・告別式は行わない。

太平洋戦争と女性の関わりについて、さまざまな角度から掘り下げた「銃後史ノート」（全18巻）を刊行。「女たちの現在（いま）を問う会」の一員として、85年度の山川菊栄賞を受賞。5歳の時に広島で被爆した体験などを基に、天皇制や戦争、平和について問い続けた。著書に「越えられなかった海峡」「『銃後史』をあるく」など。

加納さんは、私の大学の同級生でした。そして、私たちの間には、断続的ではありますが、60年以上に亙って交流が続きました。数々の思い出があります。

私たちは昭和34年に入学しました。その当時、京都大学では最初の1年間は宇治分校で教養学部の授業が行われていました。私は宇治市内に下宿することにしました。有名な平等院の近くでした。下宿を出て、宇治橋のすぐ側の宇治駅で電車に乗り、黄檗（おうばく）山・万福寺の前の黄檗駅で降り、自衛隊の宇治駐屯所の前を歩いて大学に行っていました。

加納（旧姓・細井）さんも宇治に下宿していました。二人とも文学部2組（L2）に所属していました。英語や体育の授業を一緒に受けたし、クラス単位で集まる機会も多かったので、自然と彼女と親しくなりました。登下校の時に同じ電車に乗ると、親しく話し合える間柄になりました。

彼女の美貌と学力は際立っていました。彼女に出会って、私は、よくもこんなにも美しく賢い女学生がいるものだと驚くと共に、憧れの気持ちを強く抱きました。

加納実紀代さん

一度、宇治の映画館で一緒に映画を観ました。木下恵介監督の『惜春鳥』という作品でしたが、どんな内容だったか、何一つ覚えていません。並んで観ている途中、私がクスッと笑ったことがありました。彼女が「何？」と小声で聞きました。「あの学生の襟の徽章がL（文学部）だから」と答えたことを記憶しています。

話は飛んで、それから45年も後のこと。平成15年6月14日、女性史研究家として活躍中の加納さんが、西尾市の福祉センターで「日本女性史から学んだこと、考えたこと―私の研究の跡をたどって―」と題して講話をしました。少し前に、私も会員の「西尾・幡豆国語の会」の例会で西尾市内の国語教師に向けて何か話をしてくれないかと頼むと、多忙にも拘わらず快諾してくれたのです。

講演と懇談会の後、吉良温泉の古びた旅館で一泊してもらい、翌朝9時頃、私は車で宿に迎えに行きました。私の顔を見ると、加納さんはやや興奮した面持ちで「旅館にこんなパンフレットがあったけど、是非見学に行きたい」と言いました。三ケ根駅の近くに少し前に開設された「アンコールミュージアム」のパンフレットでした。

不思議そうな顔をしている私に、加納さんは熱く語り始めました。―高校時代に『アンコールワットの恋』という映画を観て、舞台となったアンコールワットに魅せられ、その研究をしたくて京大文学部の東洋史学科に入った。何回もカンボジアに行き、アンコール遺跡を見て来た。数年前からカンボジア語を習い始めている……。

吉良家の菩提寺・華蔵寺を案内してから、アンコールミュージアムに行きました。アンコールワット修復のビデオを見たりして、加納さんはとても楽しそうでした。数日後に届いた彼女からのハガキにはこう書いてありました。

「先週は吉良の海が旅館から見えました。今日は新潟県瀬波温泉の日本海です。（中略）このところ何だか夢のような日々です。特に先週日曜は、吉良さまの華蔵寺の後、アンコールワットに出会えるなんて、信じられない！」

数多くの思い出のある加納実紀代さんが死んでしまいました。死因は、すい臓がんでした。昨年の6月9日付の彼女からの最後のハガキ。

「ご無沙汰ばかり、すみません。多摩丘陵に建つ大学病院の7階からお便り書いています。（中略）4月中旬から胃がシクシク。検査したら、すい臓ガンということで、肺気腫の持病があるので、手術できるか、ドクターたち頭を悩ませているようです。入院した途端、櫻井さんから岡本さんが亡くなったと知らされました。わがL2もそういう年ですね」

櫻井さん（京大名誉教授）も岡本さん（甲南女子大学名誉教授）も英文学者。

こうして、親しい同級生が一人一人亡くなっていきます。寂しいものです。

◎『女たちの〈銃後〉』

加納実紀代さんの代表作は、何と言っても『女たちの〈銃後〉』です。

この本は1987年1月に筑摩書房から出版されました。そして、増補新版が1995年にインパクト出版会から発行されています。

太平洋戦争の戦前・戦中・戦後における女たちの考え方や生き方が様々な角度から描かれています。冷徹な論述もあれば、温かい人間愛に満ちた文学的描写もあります。

〈序章〉は「私の『原爆の図』」と題されていて、5歳の時の自らの被爆の様子が記述されています。彼女が被爆した地点は爆心から1.9キロメートル。2キロ以内での被爆者を「特別被爆者」といい、加納さんもその一人でした。

「Ⅰ　〈銃後〉への胎動―一九三〇年代の女たち」と「Ⅱ　〈銃後〉の組織化―国防婦人会を中心に」では、銃後の女たちが総動員されて大日本婦人会が成立するまでが描かれています。「Ⅲ　それぞれの〈銃後〉」では、明治34年に愛国婦人会を発足させた奥村五百子が「軍国昭和」の先導者として取り扱われ、続いて、『母系制の研究』や自伝『火の国の女の日記』で有名な女性史研究家の高群逸枝の〈皇国史観〉への傾斜が批判されています。アナキストの八木秋子の生き方に「屹立する精神」を見い出し、エスペランティストの長谷川テルに対しては「当時、日本人のなかに、これほど強い反戦の意思表示をした人がいたのか！しかも女性のなかに―」と賛嘆しています。

「Ⅳ　女たちの八月十五日―〈銃後〉の終熄」では、終戦前後の無名の女性たちの生き方が描かれています。加納さんの豊かな文才が発揮されていて、どの篇も感動的です。

〈終章〉は「生きつづける天皇幻想」という題で、天皇制について論じられています。

加納さんの基本的な姿勢はこうです。「女の目先のやさしさが孕む加害性を、私たちは、特に女は、肝に銘じておくべきでしょう。そして、それ以上に男は、女の社会的視野をせばめ、差し当たり自分に都合のよいやさしさだけを女に求めることの愚かさを、とっくり考えてみるべきです」（「還ってきた〈息子〉」）

〈杉本武之プロフィール〉

1939年　碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。〈趣味〉読書と競馬

少人数での家族葬専用ホール
大阪屋リビング 常滑
誠意を込めて安心のお手伝い
大阪屋葬祭
常滑ホール　鬼崎ホール　阿久比ホール
年中無休　24時間受付　TEL0569-35-4949（代表）
●JAあいち知多農協指定葬祭友の会協力店
●わーくりい知多協力店
●自治労常滑市職員労働組合協力店
大阪屋葬祭　検索

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
(有)知多エッグ
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

この指（ゆび）とまれ

（277）

氏原朝信

昭和54年度　常滑小学校六年三組「なかま」

修学旅行（奈良・京都、5月29日〜30日）（2）

修学旅行電車「あおぞら」は大和八木駅止まりで八木駅から在来線で大和西大寺で乗り換え、そして**近鉄奈良駅**に―。

猿沢の池にて

はじめての鹿と

社殿の回廊を

春日大社

料理研究家

長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単！蒸し器がなくてもできる蒸しプリン

私も大好きなプリン♡とろけるような食感は
手づくりだからこそ。甘さ控え目レシピです。

材料

直径6.5cm高さ5.5cmの耐熱容器（110ccサイズ）

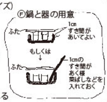
Ⓐ
- 卵　（Lサイズ）…2ケ
- 卵黄（　〃　）…2ケ
- 砂糖　…………………50g

Ⓑ　牛乳　…………………400cc

Ⓒ　バニラオイルorバニラエッセンス

カラメル
- 砂糖……40cc
- 水………大さじ1強

準備　プリン容器を平らな場所に並べる



作り方

◎カラメル作り

小さな鍋に砂糖を入れ、水を加えて中火にかけ、きつね色になるまで加熱。火を止め手早く容器に等分に流し固める。Ⓓ

◎プリン液作り

1. Ⓐをボールに入れ混ぜ合わせる
2. Ⓑを人肌に温め①に混ぜながら注ぐ
3. ②にⒸを加え混ぜ、ざるでこす。
   →Ⓓに分けて注ぎ容器ひとつずつアルミホイルでふたをするⒺ
4. 平らな鍋に2cm湯をわかす
5. 4にⒺを並べⒻの様にし強火で30秒〜1分。
   ヤケドに気をつけてアルミホイルをはずし表面がたっぷんと少し固まっている状態になっている事を確認したら、アルミのフタをし、鍋ふたして弱火で10分→火を止め5分→冷蔵庫で冷やして完成!!

いべんと

◎常滑市民文化会館

展示室　あなたのギャラリー

▼常滑地区伝統文化いけばな親子教室・六日(土)午前九時半〜同十一時　第一展示室　問合せ　常滑地区伝統文化いけばな親子教室　☎052-321-8985(伊藤)

▼第十六回墨彩画グループ展　墨彩画展示・十一日(木)〜十四日(日)　午前十時〜午後五時※最終日は同四時まで　第一展示室　問合せ　墨彩画グループ　☎43-3779(原田)

▼天乃寂とクレヨン倶楽部in常滑・二十八日(日)〜三十日(火・休)　午前十時〜午後五時※初日は午後一時〜最終日は午後四時まで　第一展示室　問合せ　Fine arts school C&I　☎090-1748-6609(箕浦)

◎常滑市立図書館

▼らくがき会展(水彩画)・十八日(木)〜二十九日(月・祝)

▼炎友会とその友人展(焼き物、写真、墨絵、俳画等)・三十日(火・休)〜五月九日(木)

◎とこなめ陶の森資料館

▼常滑陶芸作家協会展・〜二十一日(日)

▼沢田由治の目・二十七日(土)〜七月二十八日(日)

◎とこなめ陶の森研究所

▼常滑陶芸作家協会展・〜二十一日(日)

▼沢田由治の目・二十七日(土)〜七月二十八日(日)

◎常滑市体育館

▼尾東地区普及卓球大会個人戦・十三日(土)

▼愛知県卓球春季個人強化リーグ・十四日(日)

▼みずほオープン卓球大会・二十日(土)

▼全知多スプリングカップ九人制バレーボール大会・二十一日(日)

▼高校総体バスケットボール知多支部予選会・二十七日(土)

▼東海卓球ベテラン大会・二十九日(月・祝)

◎知多市こども未来館

▼工作「こいのぼり」・二日(火)〜三十日(火・休)　午前九時〜午後四時半　内容　和紙やラップの筒を使い、こいのぼりや吹流し

知多の哲学散歩道 Vol.13

「鈴渓義塾物語・溝口幹の思想①」

久田健吉（哲学研究者）

私は昨年の12月号の末尾に、「盛田命祺翁は村民とともに生き、小鈴谷村を豊かな郷にしました。溝口幹は、この翁の期待に応え、村民とともに生きる教師として、小鈴谷村を「徳これ香る」郷にしていきます。これを跡づけるのが「鈴渓義塾物語」です」と書きました。

私は今号から「溝口幹の思想」を書きますが、その前に、盛田命祺と溝口幹の思想の系譜を、なぜ「鈴渓義塾物語」として書くのかという理由を述べることにします。

溝口幹は、時の文部大臣松田源治から自らの頌徳碑の題額に「徳維香」を贈られます。私は、この題額に「郷」の字をつけて、幹は小鈴谷村を「徳これ香る」郷にしたと言いました。しかしこの徳はどんな徳だったのでしょうか。この徳の中味を解明したい。

しかし、残念ながら、書く私自身、勉強不足のために十全には解明できていないのです。ただ予感(Ahnen)として書きたいのでご了解下さい。

盛田命祺は「徳厚くして広く恵んだ」ために徳川義親により「厚徳廣惠」という頌徳碑の題額を贈られました。この時の尾張藩の治世は細井平洲の思想に基づいた善政の時代でした。

細井平洲は為政者がどうあるべきかを問い、そしてどうあるのが真実の為政者かを説きました。被治者（具体的には農民）の苦しみを知って、被治者とともに、否、被治者の先頭に立って被治者の苦しみを除去する方向で頑張るのが為政者だと。この思想において上に立つ者の当然の徳の道として藩主や藩士たちに実践させました。

「厚徳廣惠」と表現された盛田命祺の思想を、この細井平洲の思想で読み解くと、本当によく理解できます。リーダーとしての責任において村民を貧困から救い、村民を豊かにするために道路をつくり、鈴渓義塾をつくっていったのが盛田命祺ですから。因みにこの時、盛田命祺は盛田酒造の当主であっただけでなく、枳豆志組の惣代と小鈴谷村の庄屋を兼ねた大庄屋でありました。

しかし『盛田命祺翁小傳』にはこの細井平洲との関係は書かれていないのです。これらの実践は命祺が「仁慈の念」を育み、「真如薫習の妙諦」を身につけた賜物と書かれているだけです。しかし溝口幹を讃える卒業生のことばの中に細井平洲の『嚶鳴館遺草』や『嚶鳴館遺稿』に出て来る語がいっぱい出て来るのです。

私の力量不足から「仁慈の念」や「真如薫習の妙諦」の語と細井平洲の嚶鳴館思想との関連を克明には書けません。予感でしか。しかしこの予感の上で言えば溝口幹の実践は以下のような物語となりましょう。

私は12月号で、溝口幹が『盛田命祺翁小傳』の末尾に『明治忠孝節義傳』を引用したのは「私も命祺翁のように村民とともに生きる教師でありたい」という溝口幹の心情によると書きました。その命祺翁の思想の根源を仏教の「仁慈の念」(慈悲の心)に見出し、その人となりを「真如薫習」を「妙諦」として身につけたためと解し、鈴渓義塾での教育現場では命祺翁のような人格者を育てることを目標にし、これは細井平洲の嚶鳴館思想と同じと説き、リーダーとしての自覚を高める教育をしていったからこそ鈴渓の郷を「徳これ香る」郷にしていくことができたのではないでしょうか。

溝口幹は次のように言っていたと推測します。「学問は出世のためにするものではありません。学問を深め、みんなが幸せになれるようにしていくのが学問の道です」と。これは哲学の道でもあります。私はこの学問の系譜を鈴渓義塾物語として書きたいのです。

知多の動植物雑記（三六七）

原　穣

川の魚捕り（冨貴新川で）

知多の自然観察会主催「武豊の冨貴新川の魚捕り」での事。

写真の通り、お父さん、お母さんと子供で大賑わい。捕れた魚は器に移し、それを見ながらオイカワの♂や♀。カマツカ、メダカの♂や♀。カダヤシ、ナマズ、フナ、ウナギ、ドジョウ、タモロコ、ブラックバスなどの他、テナガエビ、モクズガニ、アメリカザリガニ、マハゼ、ヨシノボリなどの他、カワニナ、タニシ、イシマキガイ、シジミなど、貝の仲間までもとたくさん採取。

何時も、魚や貝の仲間など無関心気味のお母さんや女の子も、捕れた魚の多さに驚いたのか、静かにお話しを聞き入っていた。

説明する私も、お父さん、お母さん、子供達の熱心に聞き入る姿に、ついついおしゃべりに熱が入る。

話しが終るのを待っていた子供達が、自分の捕った魚やエビ、カニ、ゲンゴロウ、イトトンボなど、「家で飼ってもいい？」などと欲しがる子も。「僕も、私も」と。中にはお父さんまでも、「家で飼いたいんだけど、水草は、どれ位入れたらいいんですか」など多くの質問が出始める。

早速私も、今、飼っている魚などのことを話し、「水は八分目位にして、水草は、魚の泳ぎっ振りに邪魔にならないほどにしてネ」などなど。

そして、私も家で飼ってみよかなと任度にかかる。

家までは、十分か十五分位だからと、水は少なめにして、後部座席の間に置く。

家へ着いて取出せば、何と！水が少な過ぎて、大きなフナ二匹以外は、全部死んじゃった。ありゃー。

写真でも撮ろかと、布を敷き名前を書き明日だナと準備すれば、翌朝一匹もいない、全部、野良猫に食べられて、シマッターとなったが遅すぎた感じ。

パスタとピアノといとこのL

私はパスタが大好き。外でごはんを食べる時はパスタと決めている。妹もパスタが大好き。今日はパスタとりんごジュースのお食事で嬉しかったなぁ。私はナポリタンのパスタを食べて、お口の周りはケチャップがべっとりと付いている。これも美味しく食べた満足感の証さ。

今日はパパがピアノをプレゼントしてくれたの。私のいとこのLもピアノを習っているから、いつも競ってる。私はまだ、かっこうを少しだけしか弾けないけれど、なかなかの腕前よ。私は得意げにおじいちゃんに教えたわ。「かっこうって、ドイツ民謡だよ。知ってる？」と聞いたら、おじいちゃんは知らなかったよ。だから、おじいちゃんに弾いてあげたわ。私の成長にビックリしていたみたいだけれど、このくらいはみんな弾けるよ。いとこのLはもっと上手に弾くよ。今は幼稚園から帰ってきたら、毎日ピアノを弾いているよ。ピアノっていいな。きれいな音がするし、弾いていると一生懸命になれるし、何んたってホッとするんだよ。私、ピアノが好きだと思う。大きくなったらシンデレラになるのもいいけれど、ピアニストにもなりたいなぁ。やりたいことがいっぱいで困っちゃうなぁ…。

もうすぐいとこのLは卒園する。いとこのLとは1年間一緒に通ったわ。幼稚園でお話をしたり、遊んだりすることはなかったわ。でも、おばあちゃんのお家では、一緒に遊んだり、数字やひらがなを教えてくれたりと、優しいんだ。幼稚園でのいとこのLは私を完全に無視するの。だから、私もいとこのLのことは無視してるけど。あっ！無視じゃなくて、お互いにテレてるだけなのかな？でも、私は知っているわ。いとこのLが柱に隠れて、私を見ていることを。いつも体が半分見えているから、隠れている意味がないよ。これも愛嬌ね。4月からいとこのLは小学校に通うの。あの、やんちゃないとこのLが小学生なんだって。ビックリしちゃうよ。いとこのLには小学1年生を頑張ってほしいわ。私も幼稚園を頑張るから(K)

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で発行所へ

佐保姫に誘われてゆく句会かな	吉田ひろし
塩味が甘さ引き立て桜餅	斉藤浩美
野を焼くやすでに大地の息遣い	加藤久子
抽象画これでいいのだ木の芽時	谷川と志江
目刺食う丈夫になれと母の言う	関　里美
落椿地上華やぐその姿	杉江民子
うららかや野鳥に向ける望遠鏡	細井かね子
今日の当て若狭みやげの蒸鰈	長坂みつゑ
反抗は教科にあらず卒業す	池田ユタカ
突き押しの貴景勝に春出番	蟹江永了
蕗のとう厨守りて五十年	久田笙子
白椿髪差す乙女頬赤く	山下みどり
薄曇り高い香りの梅の園	竹内三千彦
濡るるでも濡れるでもなし春の雨	杉山和美
藪椿緑の葉陰に赤く咲き	平野紀江
しっとりと大地潤す春の雨	磯村美耶子
声だけと口だけ議会春見えず	中尾節也
灯台の岬へ椿林かな	古川義高
文句言う夫横に居て日なたぼこ	古川三恵子
浅蜊噴く器にそっと新聞紙	江端久恵
山焼やカメラ構えし人と人	清水ドラ吉
亡き父の残せし梅や枝垂れおり	杉江タエ
うたたねす喪主の背中に子の毛布	中村照代
赤鬼がタンキリ飴で春告げる	中山洋子
口ずさむ厨のラジオひな祭り	林　京子
春耕の夫の姿を目で追いぬ	浦崎ひとみ
豆まきや今朝の風呂場に豆二つ	日比道生
これ以上我慢しきれぬ葱坊主	竹内艶子
桃の日の奏でるピアノお洒落して	山中博子
耕運機うなり高なる雨あがり	服部窯平
球春や掛け声はずむ北谷の地	竹内佳香
海苔粗朶に夕日こぼるる知多の海	田上義則
薫風がほほの赤味を通りすぎ	中村洋子

を作ります。対象　どなたでも　材料費　一個百八十円

▼工作「みんなであそぼう①たいそう人形②円ばん③おさんぽ恐竜」・二日(火)~三十日(火・休)　午前九時~午後四時半　内容　①木片を使って鉄棒大回転をするかっこいい体操選手を作ります。②竹ヒゴに巻き付けた糸を引いて、紙の円ばんを飛ばして遊びます。③ダンボールとタイヤなどを使い、走る恐竜を作ります。対象　どなたでも　材料費　各一個　百五十円

▼ちっちゃないろあそび　いろあそび

▼草木染・十七日(水)~十九日(金)　午前九時~午後四時半　材料費　各一枚　百円・四百円・千円~

◎ギャラリー Cera（常滑市観光プラザ内）

▼加藤順逸陶展・五日(金)~十五日(月)　午前九時~午後五時半

▼サンド nonco.(染色デザイナー)・澤田よしえ(器)・十九日(金)~二十九日(月・祝)　午前九時~午後五時半

◎ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）

▼常滑陶芸会作品展・十八日(木)~三十日(火・休)　午前九時~午後五時

◎小ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）

▼型染め大西春伸　押絵羽子板扇会作品展・~二日(火)　午前九時~午後五時

▼青天窯グループ展・四日(木)~九日(火)　午前九時~午後五時

▼インテリア水槽展・中野勝旨・十一日(木)~十六日(火)　午前九時~午後五時

▼自由なお抹茶を!!永柳光生・十八日(木)~二十三日(火)　午前九時~午後五時

▼青天窯グループ展・二十五日(木)~五月七日(火)　午前九時~午後五時

◎常滑屋

▼「暮らしに役立つ骨董展」夢創庫・~七日(日)　今でも使える骨董や器、茶道具などもお値打ちに素敵なものが出展されます。現代ではなかなか手に入らない塗りの器など、見るだけでも楽しんでいただけます。

▼「春のサマサマ展」サマサマ・十六日(火)~二十一日(日)　素敵でらくちん、ミセスの味方、貴女の一着を探しに来てください。もちろん楽しいおしゃべりがもれなくついてきます。お待ちしております!

▼「福四季マルシェ vol.2」孝房　松本沙帆・二十三日(火)~五月五日(日・祝)　ウキウキするような新緑の季節にくらしを楽しくするセレクトグッズのマルシェです。福祉畑からとれたての雑貨&フードをお届けします。

▼春まつり・十三日(土)・十四日(日)　各字の山車六台が市内をめぐります。日曜のお昼からは常滑屋の前に門付けします。

◎方円館

▼池谷幸子陶展・~十日(水)

▼二宮祐子染展・十二日(金)~二十四日(水)

▼竹内淑浩・文子二人展・二十六日(金)~五月八日(水)

◎武豊町立図書館

▼絵画展(木の葉会)・五日(金)~十七日(水)

▼春のおはなし会・二十一日(日)　午前十時半~同十一時

◎武豊町中央公民館

▼武豊自然観察会〝春の息吹に触れよう!〟・七日(日)　午前九時半~　集合場所　別曽池公園駐車場　参加費　五十円(保険料)　問合せ　知多自然観察会☎080-1631-0413(畑中)　申込不要　小雨決行　小学生以下は保護者同伴

▼パソコン広場・十一、十八、二十五日各(木)　午後一時半~同四時半　問合せ　NPO知多ネット☎090-8422-4251(鈴木)

▼春季囲碁大会・二十一日(日)

◎武豊町民会館　ゆめたろうプラザ

▼モデルロケット製作教室&打ち上げ大会「大空杯」・二十日(土)　午前九時半~午後四時予定　講師　東海モデルロケットクラブ、日油(株)社員　定員二十名(小学三年生以下は保護者同伴)　料金　二千百円(保険料含む)

▼ゆめプラメイト総会・二十七日(土)　午後二時開会

▼ゆめプラメイト総会アトラクションNORIO.DREAM SESSION・二十七日(土)　午後二時開会　午後三時開演　出演　渡辺のりおカルテット&SUMIRE　演奏曲　イマジン・愛しのエリーなど　会員無料(要会員証)　一般有料五百円

◎武豊町総合体育館

▼春季町民太極拳大会・十日(水)

▼春季町民バドミントン大会・二十一日(日)

◎長尾児童館

▼親子ふれあいひろば・十二、二十六日各(金)　午前十時半~同十一時四十五分　対象　就園前の子どもと保護者

▼ミニ電車に乗ろう?・二十九日(月・祝)　午後一時半~同三時半　対象　幼児・小学生　定員　八十名(幼児は保護者同伴)　申込み要

◎おおあし児童館

▼プラ板キーホルダーを作ろう・二十七日(土)・二十八日(日)　各午後一時半~同二時半

◎富貴児童館

▼卓球大会・二十八日(日)　午後二時~同三時

◎半田空の科学館

▼星見会「上弦の月を見よう」月の観察や春の天体を楽しく観察します・十三日(土)　午後七時半~同九時　対象　一般　定員　六十名(要予約・先着順)　参加費　三歳~中学生　二百円、高校生以上　三百円

▼星見会プレミアム「ダブルスターの写真撮影にチャレンジ!」・二十日(土)　午後七時半~同九時　対象　二~六名の友人・家族のグループ　定員　四組(要予約・先着順)　参加費　千八十円

▼講演会「今はいつ?~宇宙の進化~」現代までに宇宙ではどんなことが起こったのか?奥深い宇宙についてのお話・二十八日(日)　午後一時半~同三時　講師　沢武文さん(愛知教育大学名誉教授)　対象　小学生以上　定員　百五十名(要予約・先着順)　参加費　三百円

▼宇宙カレンダーを作ろう!(ビッグバン~現代までを一年として計算したカレンダー)・二十九日(月・祝)　午後一時~同三時　対象　小学生以上　定員　二十名(要予約・先着順)　参加費　五百円

わが家のニューフェイス

グエンユキ(6才)　ミキ(4才)　武豊町

グエン家の大工姉

妹は今日も仲良く物作りをしています。優しく、設計士である姉は、元気あふれる妹とダンボールのお店を建設中。意見があわず、喧嘩する時もあるけれど、やっぱり一緒に遊ぶのが一番!

日に日に成長する二人を見ていると胸の中が幸せでいっぱいになります。これからどんどん成長して、沢山物作りしていってね!

写真・文　グエン　ナム

愛とMy Family

冨浦幹介（かんすけ）(1才2ヶ月)　常滑市港町

はじめまして。ぼくの名前はかんすけです。ぼくの名前に使われている幹という漢字は二人のおじいちゃんの名前から取ったんだ。お父さんとお母さんがおじいちゃんたちのいい所をたくさん受け継いで欲しいって願いをこめて付けてくれたんだって。大人になったら大好きなおじいちゃんたちのような優しくて男らしい大人になりたいな。

写真・文　冨浦　智子

たかぎくみ

中根啓

加藤勢季子

加藤洋史

陶工房つるかめと仲間たち

2019年4月27日（土）
～5月6日（月）
AM10:00～PM5:00

中根由美子

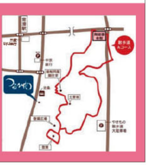
森千明

保田芳文

■会　　場　陶工房つるかめギャラリー
〒479-0836　常滑市栄町4-96
☎0569-35-6724　携帯090-9910-5507
Ⓟ1台分有ります

■出展作家
- たかぎくみ（ジュエリー）
- 中根啓（木）
- 中根由美子（染の服）
- 森千明（ジュエリー）
- 保田芳文（革の鞄）
- 加藤勢季子（陶）
- 加藤洋史（陶）

https://turu-kame.wixsite.com/turu-kame



日本語を教えてみませんか
ボランティア募集

地域に住んでいる外国の方に日本語を教えるグループです。生徒さんが増え、4月より日曜日クラスを設けます。日本語が話せれば資格、年齢は問いません!
あなたの力をお貸し下さい。

土曜日クラス

毎週土曜日　午前10:00～12:00
場所…武豊町おおあし児童館

日曜日クラス

毎週日曜日　午後2:00～4:00
場所…武豊町中央公民館 2F
パソコン室

武豊日本語ボランティア　連絡先…0569-73-2833（伊賀）